

ぼくの大事なパートナー

鹿児島県出水市立上場小学校 六年 切通 正義

ぼくはみそが大好きだ。だから、ぼくが初めて作った料理はみそしるだ。

それは小学三年生の時のことだ。初めて料理をするということで、ドキドキワクワクしながら母に教えてもらい、うすあげとナスとワカメのみそしるを作った。ダシをとり、食材を切り、にて、最後に火を止めてみそを入れる。みその香りが一気に広がり、「料理をしたぞ。」という実感がわく。

今、考えれば、母はいろいろなことに配りよして、みそしるを最初の料理に選んだのだと分かる。様々な食材の中から、切りやすい食材を選ぶことができること。調味料の基本として、みその使い方を伝えておきたかったこと。そして、わが家の味をしっかりと引きついでおきたかったこと。

ぼくは今、六年生。いろいろな料理を作ることができるようになった。マーボー豆腐やチャーハン、野菜いため、どれもみそをかくし味で使うことで、ぐっとおいしくなる。みそは、様々な個性の味をまとめてくれる万能調味料なのだ。

ぼくは、幼少期に三年間、スペインで過ごした。外国の食材に囲まれながら、わが家では毎日のようにみそしるを食べていた。おかげで、ぼくはいつも日本食を身近に感じながら成長できた。また、スペイン人の友達にもみそしるをふるまって、とても喜ばれた。みそが国際交流の仲立ちをしてくれた。

おみその副読本を読んで、たくさん種類のみそがあることが分かった。その土地の自然や食文化に合わせて改良してきた成果だと思う。だからこそ、みそはたくさんの人に愛されているのだ。ぼくは将来、古生物学者になりたいと思っている。海外にもどんどん行きたい。どこに行ってもみそがあれば、わが家の味や食文化を感じることができる。みそは、ぼくにとって、心強いパートナーなのだ。